

医新会グループの歩み

History of ISHINKAI GROUP

- | | |
|---------|--|
| 1999.08 | 明石市二見町に「新見眼科」を開設
POM(Point of Medication/診療時点情報管理システム)導入 |
| 2000.09 | 西日本で初めてオルソケラトロジーを導入
12月より一般処方開始 |
| 2001.09 | 『有限会社ノイエジヒト』にホームページ事業部(現WEB事業部)設立 |
| 2002.05 | 光学式眼軸長測定装置IOLマスターを兵庫県下で初導入 |
| 2003.11 | SuperLizerを兵庫県下の眼科で初導入 |
| 2005.04 | 『眼鏡工房・ノイエ』店舗オープン |
| 2005.11 | 眼科版Clao第1号機 導入・稼働開始
『有限会社ノイエジヒト』から『株式会社アビント』に組織変更
医療システム事業部・アウトソーシング事業部・飲食事業部を設立 |
| 2006.02 | 本社事業所移転 『眼鏡工房・ノイエ』移転オープン |
| 2006.09 | 新見眼科を法人化 『医療法人社団 医新会』を設立 |
| 2006.10 | 『医療法人社団 医新会 フタバ眼科』を開設
3D-OCT導入、SLT/YAGレーザー導入 |
| 2007.01 | フタバ眼科にてエキシマレーザー屈折矯正手術を開始 |
| 2008.04 | 『医療法人社団 医新会 レイ眼科クリニック』を開設
フェムトセカンドレーザー(FemtoLDV)を日本で2番目に導入 |
| 2010.08 | 有水晶体眼内レンズ(ICL)の施術を開始 |
| 2010.10 | 『こどもがね専門店ノイエ・キッズ』アスピア明石にオープン |
| 2011.05 | 網膜硝子体/白内障手術装置
Alconコンステレーションビジョンシステム導入 |
| 2011.10 | 電子カルテC-Note本稼働開始 |
| 2011.11 | 緑内障手術装置トラベクトムを兵庫県下で初導入 |
| 2012.02 | レイ眼科クリニックにRefractiveSuite(エキシマレーザーEX500&
フェムトセカンドレーザーFS200)を西日本初導入 |
| 2012.03 | ICRS(角膜内リング)、角膜クロスリンク手術を開始 |
| 2012.11 | 『新見眼科』を隣接地に新築移転 |
| 2013.01 | ハイデルベルグスベクトラリス OCT&HRA導入 |
| 2014.03 | 『こどもがね専門店ノイエ・キッズ』
アスピア明石から神戸元町商店街に移転 |
| 2014.05 | 白内障手術装置 Alconセンチリオンを関西初導入 |
| 2014.11 | iSS手術患者情報管理システム 運用開始 |
| 2015.07 | SHUNDOビル竣工 「フタバ眼科」を新築移転 |
| 2016.08 | 『医療法人社団 医新会 なかにし眼科クリニック』を開設
『眼鏡工房ノイエ&こどもがね専門店ノイエ・キッズ 西神戸店』を開設 |
| 2016.11 | 3D手術装置システム NGENUITY を関西初導入 |
| 2017.04 | 明石市初の小規模保育園(認可保育所)「クレーシュのぞみえん」を開設 |
| 2017.08 | 医新会グループ5番目の眼科施設として「やまいけ眼科」を継承 |
| 2018.03 | 『眼鏡工房ノイエ&ノイエ・キッズ 御影店』を開設 |
| 2018.04 | 小規模保育園(認可保育所)「クレーシュのぞみえん」を開設 |
| 2018.09 | レーザー白内障手術装置
LenSx with Alcon Cataract Refractive Suite を関西初導入 |
| 2019.03 | 毛様体/バルス光凝固装置 CycloG6 導入
ナビゲーションレーザーシステム Navilas577s 導入 |

20th Anniversary

past 20 years , next 20years

ISHINKAI GROUP

Next

1999年に一つの小さな眼科医院からスタートして
立ち止まることなく駆け抜けた20年間。

医新会グループは、眼科医療と共に成長してきたと言えます。
眼科医療は特にこの10～20年の技術進歩が目覚ましく
現時点で検査・手術の機器から手技まで非常に高度なレベルに達しています。

そして幸運にも、我々は常にそういった最新鋭かつ高度な治療に取り組む機会を多く持ち
数多くの患者様の治療、手術を行ってまいりました。

2017年には、神戸・明石エリアから離れた豊岡地区の眼科医院を継承し
遠隔診療という新たな分野での試みも開始いたしました。
これにより、過疎地域でも高いレベルの医療を提供するチャレンジを始めています。

地域医療を担う我々のような存在は
日々の診察・診療に向き合う中で
技術や手技の進歩のスピードに遅れることなく
常に新しい技術を取り入れ、患者様の治療の選択肢を増やして
より良い結果を導き出す必要があります。

すべては、
患者様、関係者の皆様のお力があったからこそその成長と
医新会グループ一同、心より、御礼申し上げます。

その瞬間瞬間で、より良い治療法を求め
多くの新しい、優れた医療技術を患者様へご提供する。

我々医新会グループはこれからの20年、新たな20年においても
この理想を一切変える事なく持ち続けます。

多くの新しい技術が開発されたことで、
眼科医療の質は高くなったと言えるのかもしれませんが
新しい技術が必ずしも最良の選択と言えるかは、わかりません。
そして、選択肢が増えすぎた場合
我々医療従事者でさえも、何が最良の選択なのか判断の難易度が上がります。

新しい技術、最新鋭の手技を取り入れることは同時に
当グループ全施設において、同じレベルで
治療選択の判断力と提案力を持つことが求められ
全てが揃って初めて医療としての質が上がります。

そして今後我々は、
20年間で培った技術をもとに
蓄積されたデータをAI等の手法も用いて
分析・活用しようとするフェーズをむかえます。
引き続き、医新会グループでは医療機器やシステムの開発にも
より一層大きく注力していきます。

ISHINKAIグループ CEO
新見 浩司

Past